

野本 卓氏の死を悼む

日本理学療法士協会会長

松 村 秩

昭和 46 年 6 月 20 日、第 6 回の日本理学療法士協会の総会が東京で開かれ、役員選挙において、野本卓氏は会長当選という栄誉を飾り、第 3 代会長に就任した。

野本氏は 42 年から協会運営に参加され、財務部長、常任理事としてあの持ち前の体躯を利用しての活躍振りにはエネルギーそのものの印象を周囲にあたえたものであった。その後東京士会の副会長、会長をそれぞれ務められて東京士会の組織、基盤作りに鋭意、集中され、その手腕を発揮された。

当時 2 代目の会長として私も野本氏といろいろな場面において接触をもつようになったが、あの体躯と同じように胆玉は大きく、また面白味に富んだ話し振りはいつも周囲の人々をひきつけるようなところがあった。確かに心は広く好人物を感じさせるものがあった。氏の人徳というか、まことに広い範囲に亘って人との交際は多く、そのことが会長となってからの協会運営に大きなプラスをもたらすことになった。当時、協会の社団法人化の問題が大きな課題であったが、早速、ある人を通して大物政治家と接触を図り、遂に社団法人の認可を得ることができたのであるが、これなどはまさしく氏の面目振りを示したものである。このように氏の行動力には目をみはるものがあり、OT 協会との大学制度対策合同委員会等も委員長として主催された。所謂押しが強く、ここぞという場面での強腰振りには感心することが多かった。個人的につき合う場合も、大変に人懐っこいところがあってあたたかい人柄であった。

46 年の特例問題で協会が大きく揺れたのであるが、事の是非はともかくも、会長就任後示された収拾策は氏の勘の冴えぶりをいかに発揮されたものだと思っている。



野本 卓先生遺影

今にして思えば、協会にとって本当に必要な人物であったと思う。1つの歴史的事態に立ち向える人であったし、そういう意味においては私にとっても教えられるところが多くあった。

協会運営においては、現職教育の組織化と卒業教育の充実、機関誌としての臨床理学療法の定期発行等に力を入れられたが、そのいずれも結実して、現在協会の基幹の事業となっている。

協会発足以来いつも 3つの目標があげられてきたが、そのうち社団法人化は氏の会長時代に実現し、WCPT 加盟は昨年実現したのであるが、これを同氏が知ったら大変に喜ばれたことだろうと思う。最後の業務独占はまだまだ先のことであると思われるが、この実現のためにも大いに氏の活動が必要とされると思うのは私 1人ではない。

大学病院に奉職されて 20 年、国立大学病院で働く PT の地位向上や、理学療法部門の充実等にも大いに活動されてこられたが、これからという 49 歳で心筋硬塞で業務中倒られ、それ以後 3 年間療養されたがとうとう去る 8 月 24 日永眠された。慎んで氏の御冥福を協会員一同とともに祈って筆をおく。